

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400152		
法人名	株式会社 和乃加		
事業所名	グループホーム アガペ (つつじの里)		
所在地	岡山県玉野市八浜町八浜1440-4		
自己評価作成日	平成 28年 1月 26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigekensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390400152-008&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 28年 3月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者本人に限らず、家族、関係者等にも柔軟な対応を目指しており、様々な内容の相談にも可能な限り対応しています。
 入居者本人に対しては、コミュニケーションを重視しており、食事作りや掃除等も可能な限り入居者を行うようにしています。また、希望や意見を今のままで留めず、コミュニケーションを通じて新しい希望や意見等を見出しただけのように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅と商業施設が混在する地にあり、隣接のコンビニエンスストアや近くのうどん店など、利用者の買い物や外食等の利便性が高い。こまめな外出支援や長時間にわたる入浴時間等、一人ひとりの利用者の思いや意向を尊重したケアに努めている。また、担当職員が毎月、利用者の様子や写真をアガペ便りで家族に伝えるなどもしている。利用者は持っている力を使って、洗濯物をたたんだり、交代で料理の盛り付けに参加する等、積極的に生き生きと暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様に信頼、安心していただけるようにと方針を掲げ共有している。地域の方も参加していただける行事も企画している。	各ユニットに掲示するとともに、職員の名札の裏には心得10ヶ条を明記している。毎月の職員会議で触れるなどして、共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物等はできるだけ地域で行えるように努めている。	地域で行われる清掃等に参加するとともに、中学校で開催される祭りには、利用者と一緒に参加している。保育園児との交流や高校生やオカリナ・手品等のボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時々、地域住民の方からの相談等による事あり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、意見やアイデアをいただき、取り組んでいる。	民生委員・自治会役員・愛育委員・包括支援センター等が参加し、2ヶ月に一度開催している。内容は、利用状況・行事報告と計画・情報提供などである。出された意見は、食事メニューの張り出し等に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や地域包括支援センターの方との交流はあり、意見や情報をいただくことがある。	管理者が窓口となり、報告・相談・連絡等の連携をしている。包括支援センターが実施する研修等にも参加したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行っている。玄関の施錠はしているが、入居者が外出したいという時は職員と入居者で話し合い外出している。	年間計画の中に位置づけ、管理者が学んできた内容の伝達研修をしている。スピーチロックについても、日々のケアの中で、その都度、指導に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の職員が外部研修を行い、その他の職員は内部研修を受けている。また、ニュース等の虐待の情報を随時職員で情報の共有が出来るように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと市役所の担当職員の方と協議し、成年後見制度の活用の検討を行っている。また、研修等にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際には説明を行い、その都度不安や疑問がないか尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の面会簿の横に意見箱を設置しており、意見を募っている。また、その他に入居者、入居者の家族にも意見や満足度を直接聞くこともあり、反映させている。	面会時や電話等で意見を聞くようにしている。出された意見は、受診や野菜の栽培・折り紙などに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員と定期的な懇談等行っており、内容によっては会議の議題として出し、反映させている。	労務士との定期的な面談や自己評価の面談等を実施して把握に努めている。また、日々のケアの中で互いに声をかけ合ったりもしている。出された意見は、営繕や処遇等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回賞与時に、各職員に自己評価シートを記入してもらっている。また、研修の機会を設け、参加者には交通費等の支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修(社内・外)の機会を設け、参加者には研修費等の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階はもちろん、その後もコミュニケーションを基本にした介護に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、契約時、入所時に不安や要望を尋ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、担当のケアマネージャーより情報収集を行い、対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションだけでなく、食事や入浴の時も、職員と入居者ともに楽しんで行うことに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族により大きく差はあるが、積極的に関わっていただけている家族もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物をする際はできるだけ玉野市内のスーパー等に入居者と職員で買い物に行っている。	利用者がかつて働いていた職場への訪問や、元同僚の面会・スーパーへの買い物など、これまでの関係が継続できるよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団でのレクリエーションや複数での外出ができる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡があった際には相談等行うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護を行うにはコミュニケーションを行うことが重要であると捉えており、ニーズを訴えやすい環境作りに努めている。	日々の会話の中で、利用者の声に耳を傾けるよう努めている。困難な場合は、生活歴や家族との連携により、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当のケアマネージャーよりアセスメントを行っている。それは入所してからも行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身の状態は記録に残している。有する力については随時アセスメントを行い記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人は日常生活の様々な場面で、家族とは電話か面会時に意見等を伺っている。介護スタッフについては意見を収集し介護支援計画を作成している。	情報を基に面談し、ケアマネージャーが案を作って職員で共有している。その後、家族と連携している。3ヶ月のモニタリングを経て、プランを確定し、短期と長期の目標により、それぞれ見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に個別記録を記入し、その他に一覧できる記録を作成している。また、意見やアイデアがある場合は申し送りノートに記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の方の状況に合わせ本人以外の福祉の相談にも応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他の事業所と協力してボランティアを招いたり、利用者同士の交流もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所されている方のほとんどが、協力医療機関の医師が主治医であり週に一度往診していただいている。本人、家族の要望があればその都度、協力医療機関もしくは主治医に相談している。	利用開始時に、ほとんどの利用者は協力医をかかりつけ医としている。週に一度の往診があり、家族と利用者に安心感をもたらしている。歯科については、希望による往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回以上、訪問看護師に来ていただいております。24時間訪問看護師と連絡をとり相談できる態勢を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は病院関係者に施設でのアセスメントシートを提供し随時、電話連絡や様子を伺いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に看取りの説明を行っている。看取り実績あり。	利用開始時に、事業所として出来ること・出来ないことを説明している。重度化した場合、再度、家族と連携し、医師・看護師・職員のチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が、AEDの使用方法等の応急手当講習を受講している。また、体調不良時及び緊急時の対応マニュアルを整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っており、避難経路も普段から確認しやすいようになっている。八浜小学校・八浜保育園と合同にて地震・津波避難訓練を行っている。	事業所では、夜間を想定した避難訓練を実施している。また、小学校で行われる地震を想定した訓練に保育所と共に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の中には敬語をやめてほしいという入居者もあり、入居者、家族の意見を聞いて対応することに努めている。	呼称は利用者それぞれの意向を尊重したも のとしている。更衣やトイレの見守り、入浴支 援ではプライバシーの確保に努めている。	トイレの見守りについては、より細や かな配慮が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	自分の意思を言葉で伝えることが困難な方 に対して、選択肢を設けたり、日常での生活 の中でのボディランゲージ等で対応すること に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩等の訴えがあればスタッフは 同行している。また、訴えの無い方には声掛 けを行い、要望を聞いたり、誘ったりしてい る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	服装に悩んでいる方がいれば本人と一緒に 考えている。パーマ、カットの希望があれば 地域の床屋等にて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	テーブル拭き、盛り付け、配膳、下膳、洗物 と出来る入居者が分担して出来ることをして いる。	配食を基本とし、利用者も交代で盛り付け たり下膳するなど、積極的に参加している。誕 生日や季節の行事では、寿司や鍋物を一緒 に作るなど、食事が楽しいものになる工夫を している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事量、水分量の一覧表を作り、分かりや すいようにしている。また、食事時の声掛け や見た目のキレイさで食欲をそそっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	その人にあつた対応を行っている。また、口 腔内の状態に応じた歯ブラシや洗口液を歯 科医と相談して使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の動きでトイレサインをキャッチできるように努めている。車椅子の方も無理のないような声掛けや援助を行いトイレを使用してもらっている。	見守りや記録に基づく声かけにより、ほとんどの利用者はトイレで排泄している。夜間は一人ひとりに応じて声かけ等している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	集団で体操や散歩等運動を促している。また、何かあれば主治医に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたい入居者を優先している。タイミングについては性格や体調に考慮しつつ声掛けをさせてもらっている。	週3回、朝から夕方にかけて実施している。一人ずつ湯を張り替える配慮や、入浴剤の使用等もしている。嫌がる人については、時間を置いたり、人を替えるなどの対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休憩や就寝時間は本人のその日の体調や生活習慣を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の個人ファイルに、薬の情報が記載されており、いつでも服薬している内容の確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の要望を聞き、畑や料理、洗濯、掃除と本人が今までの生活歴に起因した作業等を声掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	訴えがあればもちろん、無くても声掛けを行っている。また、家族で参加できる夏祭りや旅行も行っている。	日々の買い物や外食、墓参りなど、積極的に外出の支援をしている。自転車で岡山市内まで出る等、利用者の意向を尊重している。また、バスを使った旅行も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの了承をいただいた方は自分で管理し買い物にも行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという方がいれば状況に応じて対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吐き出し窓や天窓で自然の光が多く入るように設計しています。	リビングの天井が高く、天窓による採光をするなど、自然を生かした造りとなっている。温度や湿度・音等が適切に管理され、空気の淀みもない。壁には季節を感じさせる貼り絵等がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル、テレビ前の応接セット、窓下の応接セット等設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族に今まで使ってきたものを持ってきてほしいと促している。また、タンス等の大きいもの等は職員が直接自宅まで行き運ぶといったこともしている。	畳部屋もある。かつて使用していた家具やテレビ、写真、現在も使用しているサイクリング用ヘルメット等が持ち込まれ、居心地よく暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者に合わせて居室のドアやトイレに目印をつけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400152		
法人名	株式会社 和乃加		
事業所名	グループホーム アガペ (ふじの里)		
所在地	岡山県玉野市八浜町八浜1440-4		
自己評価作成日	平成 28年 1月 26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigekensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390400152-008&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 28年 3月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者本人に限らず、家族、関係者等にも柔軟な対応を目指しており、様々な内容の相談にも可能な限り対応しています。
 入居者本人に対しては、コミュニケーションを重視しており、食事作りや掃除等も可能な限り入居者を行うようにしています。また、希望や意見を今のままで留めず、コミュニケーションを通じて新しい希望や意見等を見出しただけのように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅と商業施設が混在する地にあり、隣接のコンビニエンスストアや近くのうどん店など、利用者の買い物や外食等の利便性が高い。こまめな外出支援や長時間にわたる入浴時間等、一人ひとりの利用者の思いや意向を尊重したケアに努めている。また、担当職員が毎月、利用者の様子や写真をアガペ便りで家族に伝えるなどもしている。利用者は持っている力を使って、洗濯物をたたんだり、交代で料理の盛り付けに参加する等、積極的に生き生きと暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様に信頼、安心していただけるようにと方針を掲げ共有している。地域の方も参加していただける行事も企画している。	各ユニットに掲示するとともに、職員の名札の裏には心得10ヶ条を明記している。毎月の職員会議で触れるなどして、共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物等はできるだけ地域で行えるように努めている。	地域で行われる清掃等に参加するとともに、中学校で開催される祭りには、利用者と一緒に参加している。保育園児との交流や高校生やオカリナ・手品等のボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時々、地域住民の方からの相談等による事あり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、意見やアイデアをいただき、取り組んでいる。	民生委員・自治会役員・愛育委員・包括支援センター等が参加し、2ヶ月に一度開催している。内容は、利用状況・行事報告と計画・情報提供などである。出された意見は、食事メニューの張り出し等に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や地域包括支援センターの方との交流はあり、意見や情報をいただくことがある。	管理者が窓口となり、報告・相談・連絡等の連携をしている。包括支援センターが実施する研修等にも参加したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行っている。玄関の施錠はしているが、入居者が外出したいという時は職員と入居者で話し合い外出している。	年間計画の中に位置づけ、管理者が学んできた内容の伝達研修をしている。スピーチロックについても、日々のケアの中で、その都度、指導に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の職員が外部研修を行い、その他の職員は内部研修を受けている。また、ニュース等の虐待の情報を随時職員で情報の共有が出来るように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと市役所の担当職員の方と協議し、成年後見制度の活用の検討を行っている。また、研修等にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際には説明を行い、その都度不安や疑問がないか尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の面会簿の横に意見箱を設置しており、意見を募っている。また、その他に入居者、入居者の家族にも意見や満足度を直接聞くこともあり、反映させている。	面会時や電話等で意見を聞くようにしている。出された意見は、受診や野菜の栽培・折り紙などに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員と定期的な懇談等行っており、内容によっては会議の議題として出し、反映させたりしている。	労務士との定期的な面談や自己評価の面談等を実施して把握に努めている。また、日々のケアの中で互いに声をかけ合ったりもしている。出された意見は、営繕や処遇等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回賞与時に、各職員に自己評価シートを記入してもらっている。また、研修の機会を設け、参加者には交通費等の支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修(社内・外)の機会を設け、参加者には研修費等の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階はもちろん、その後もコミュニケーションを基本にした介護に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、契約時、入所時に不安や要望を尋ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、担当のケアマネージャーより情報収集を行い、対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションだけでなく、食事や入浴の時も、職員と入居者ともに楽しんで行うことに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族により大きく差はあるが、積極的に関わっていただけている家族もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物をする際はできるだけ玉野市内のスーパー等に入居者と職員で買い物に行っている。	利用者がかつて働いていた職場への訪問や、元同僚の面会・スーパーへの買い物など、これまでの関係が継続できるよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団でのレクリエーションや複数での外出ができる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡があった際には相談等行うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護を行うにはコミュニケーションを行うことが重要であると捉えており、ニーズを訴えやすい環境作りに努めている。	日々の会話の中で、利用者の声に耳を傾けるよう努めている。困難な場合は、生活歴や家族との連携により、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当のケアマネージャーよりアセスメントを行っている。それは入所してからも行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身の状態は記録に残している。有する力については随時アセスメントを行い記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人は日常生活の様々な場面で、家族とは電話か面会時に意見等を伺っている。介護スタッフについては意見を収集し介護支援計画を作成している。	情報を基に面談し、ケアマネージャーが案を作って職員で共有している。その後、家族と連携している。3ヶ月のモニタリングを経て、プランを確定し、短期と長期の目標により、それぞれ見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に個別記録を記入し、その他に一覧できる記録を作成している。また、意見やアイデアがある場合は申し送りノートに記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の方の状況に合わせ本人以外の福祉の相談にも応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他の事業所と協力してボランティアを招いたり、利用者同士の交流もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所されている方のほとんどが、協力医療機関の医師が主治医であり週に一度往診していただいている。本人、家族の要望があればその都度、協力医療機関もしくは主治医に相談している。	利用開始時に、ほとんどの利用者は協力医をかかりつけ医としている。週に一度の往診があり、家族と利用者に安心感をもたらしている。歯科については、希望による往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回以上、訪問看護師に来ていただいております。24時間訪問看護師と連絡をとり相談できる態勢を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は病院関係者に施設でのアセスメントシートを提供し随時、電話連絡や様子を伺いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に看取りの説明を行っている。看取り実績あり。	利用開始時に、事業所として出来ること・出来ないことを説明している。重度化した場合、再度、家族と連携し、医師・看護師・職員のチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が、AEDの使用方法等の応急手当講習を受講している。また、体調不良時及び緊急時の対応マニュアルを整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っており、避難経路も普段から確認しやすいようになっている。八浜小学校・八浜保育園と合同にて地震・津波避難訓練を行っている。	事業所では、夜間を想定した避難訓練を実施している。また、小学校で行われる地震を想定した訓練に保育所と共に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の中には敬語をやめてほしいという入居者もあり、入居者、家族の意見を聞いて対応することに努めている。	呼称は利用者それぞれの意向を尊重したも のとしている。更衣やトイレの見守り、入浴支 援ではプライバシーの確保に努めている。	トイレの見守りについては、より細や かな配慮が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	自分の意思を言葉で伝えることが困難な方 に対して、選択肢を設けたり、日常での生活 の中でのボディランゲージ等で対応すること に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩等の訴えがあればスタッフは 同行している。また、訴えの無い方には声掛 けを行い、要望を聞いたり、誘ったりしてい る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	服装に悩んでいる方がいれば本人と一緒に 考えている。パーマ、カットの希望があれば 地域の床屋等にて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	テーブル拭き、盛り付け、配膳、下膳、洗濯 と出来る入居者が分担して出来ることをして いる。	配食を基本とし、利用者も交代で盛り付け たり下膳するなど、積極的に参加している。誕 生日や季節の行事では、寿司や鍋物を一緒 に作るなど、食事が楽しいものになる工夫を している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事量、水分量の一覧表を作り、分かりや すいようにしている。また、食事時の声掛け や見た目のキレイさで食欲をそそっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	その人にあつた対応を行っている。また、口 腔内の状態に応じた歯ブラシや洗口液を歯 科医と相談して使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の動きでトイレサインをキャッチできるように努めている。車椅子の方も無理のないような声掛けや援助を行いトイレを使用してもらっている。	見守りや記録に基づく声かけにより、ほとんどの利用者はトイレで排泄している。夜間は一人ひとりに応じて声かけ等している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	集団で体操や散歩等運動を促している。また、何かあれば主治医に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入りたい入居者を優先している。タイミングについては性格や体調に考慮しつつ声掛けをさせてもらっている。	週3回、朝から夕方にかけて実施している。一人ずつ湯を張り替える配慮や、入浴剤の使用等もしている。嫌がる人については、時間を置いたり、人を替えるなどの対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の休憩や就寝時間は本人のその日の体調や生活習慣を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の個人ファイルに、薬の情報が記載されており、いつでも服薬している内容の確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の要望を聞き、畑や料理、洗濯、掃除と本人が今までの生活歴に起因した作業等を声掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	訴えがあればもちろん、無くても声掛けを行っている。また、家族で参加できる夏祭りや旅行も行っている。	日々の買い物や外食、墓参りなど、積極的に外出の支援をしている。自転車で岡山市内まで出る等、利用者の意向を尊重している。また、バスを使った旅行も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの了承をいただいた方は自分で管理し買い物にも行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという方がいれば状況に応じて対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吐き出し窓や天窓で自然の光が多く入るように設計しています。	リビングの天井が高く、天窓による採光をするなど、自然を生かした造りとなっている。温度や湿度・音等が適切に管理され、空気の淀みもない。壁には季節を感じさせる貼り絵等がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル、テレビ前の応接セット、窓下の応接セット等設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族に今まで使ってきたものを持ってきてほしいと促している。また、タンス等の大きいもの等は職員が直接自宅まで行き運ぶといったこともしている。	畳部屋もある。かつて使用していた家具やテレビ、写真、現在も使用しているサイクリング用ヘルメット等が持ち込まれ、居心地よく暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者に合わせて居室のドアやトイレに目印をつけている。		